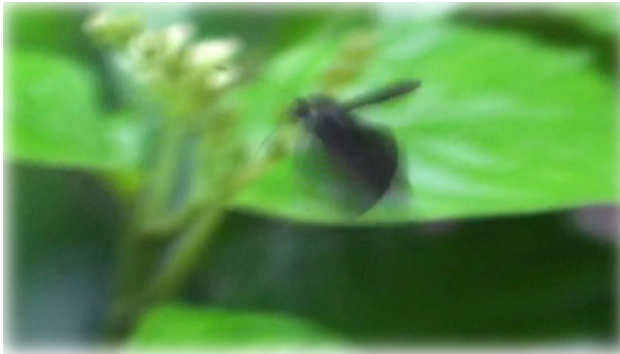


1993年に初めて沖縄、石垣島を訪れて以降、いわゆる「八重山病」にとりつかれて20回を超える蝶探索旅行（参考：<http://nipponchohkiko.web.fc2.com/yaeyama.html>）を積み重ねているのに、本種とは2007年11月、妻が同行してくれた西表島の浦内川から奥深く入ったジャングル内の遊歩道で、雨が降りしきる悪天候のなか初めての出会いを果たしただけで、その後も観察機会を得られていない。わずかな時間、足元に咲く小さな白い花に静止した姿がはっきりと思い出せるが、ビデオ撮影準備を整える間もなく飛び立たれ、満足な撮影記録は撮れていない。

Nov. 4, 2007 西表島：道が平坦となって左へと大きくカーブする場所の左手がジャングルの中では適度に開けた明るい場所となっている。チョウが遊ぶとしたらここが最適だろうな、と想像しながらカーブの先端部にきたその足元の小さな白い花上に、まぎれもないリュウキュウウラボシシジミがきれいな白地に特徴的な黒い斑点模様を見せて静止しているのが目に飛び込んでくる。幸い傘を外してもカメラを構えられそうな状況で、上着ジャケット内にくるむように保護してもっていたビデオカメラを急いで取り出す。可憐なチョウを驚かさないう、ゆっくりとしゃがみこんでフォーカスを合わす動作に入ったとたん花の蜜を吸っていたはずのチョウは急に飛び立ってしまう。この敏捷性は想定外で、かろうじてその小さなチョウがあわてて飛ぶ姿だけをビデオ映像として捉えることはできたもののとても満足できるものではない。結局、リュウキュウウラボシシジミの吸蜜姿勢は再現されなく、初めて見る生きた姿を脳裏に鮮明に焼き付けただけで、特徴的な美しい静止映像を確保できないまま帰路につかねばならないのが残念。



参考として、故金子實氏による西表島大富林道での撮影記録を示しておく。

